

平成17年度施政方針(要約)／1面からの続き／

後期基本計画の策定

第3期総合計画の仕上げともいうべき平成17年度から「修正後期基本計画」は、基本的方向性として、市民参画、市民との協働、そして行政改革を一層推進し、持続可能な行財政、即ち自立へと改革を進めることとしています。それは、自立した市民と行政との役割分担、公平、公正な負担についての明確化でもあります。

新年度は、使用料等で市民の方々に負担をお掛けするものがあります。将来的にも、自治、自助・互助のなかで、また、後世の福生市民のために、公平、公正な負担をお願いしなければならないこともあります。

福生市における特別会計の現状も、一般会計からの繰入金の増加や公平、公正な負担の視点からの問題など、様々な課題があり、一定の受益者負担をお願いしながら、努力する前提として、歳出削減に努力することは、行政に課せられた当然の責務です。事務経費等の一層の削減を進めるとともに、歳出抑制のための対策を実施していくことが必要です。

福生市は、一人当たりの国民健康保険医療費が、26

市で最も低い状況ですが、これも健康診査の充実、スポーツ振興等の充実の成果です。さらに健康寿命を延ばす。さらには、心身ともに健康な身体を作つて、ただくための「健康ふっさ

21(仮称)計画」の策定や「介護予防健康診査」の導入を進めています。

さて、持続可能な発展と協働を進めていく第1ステップは、情報の共有です。行政

から政策化し、議会の議決をいただいて、その多くは市民と協働して実施していくこととなります。そのためには、市職員の説明責任が重要であると考えています。

第2ステップは、意識改革です。今まで、行政が担うものとされていた事業が、特区制度などの導入により、市民活動団体や民間事業者が担うことができるようになります。行政の意識の改革が求められています。市民自治を進め、持続

度の主要な事業

関係について既定の概念から脱却し、新たな視点での関係構築を目指さなければなりません。既に、市民会議やフォーラムへの参加、萌芽更新事業や捨て看板撤去事業、水辺の楽校等の協働実施など、新たな視点での役割分担、参画に取り組んでいる市民の方もおられ、大変有難く思っています。

市職員としても、スピード、オリジナリティ、責任、競争、自己研鑽等を鍵として、市役所、市の仕事というものについての抜本的な意識改革が必要であります。

行政での意識改革の一歩として、新年度から、新たな予算編成方式を導入しました。この枠配分方式と事務事業評価、実施計画、職員の目標管理制度とを効果的に連携させ、限りある財源の効率的、効果的な配分、執行をいたすとともに、職員の意識改革を進めていきます。

さらに、大学等の頭脳が集積した多摩地域の特色を活用し、学術・文化・産業ネットワーク多摩への参加など大学等との連携を深め、企画立案能力の向上や新たな視点での施策検証などを図つていきたいと考えます。

救急医療の拠点となる公立福生病院の施設整備、医療体制の充実に努めるとともに、治療から予防へ、健康

の好ましい状況を維持しつつ、少子化のなかで、幼児元化の流れなども考慮しつつ、公立保育園の役割、在り方ということについても方向性を見出しています。

新年度は、福生病院の建設事業が実施設計の段階となり、平成21年度完成を目指し、羽村市、瑞穂町と協力して進めていきます。また、「健康ふっさ21(仮称)計画」策定事業や介護予防健康診査事業などに取り組みます。

多くの市民の参画をいただき、市民と行政との明確化を図り、市民と行政との

関係について既定の概念から脱却し、新たな視点での関係構築を目指さなければなりません。既に、市民会議やフォーラムへの参加、萌芽更新事業や捨て看板撤去事業、水辺の楽校等の協働実施など、新たな視点での役割分担、参画に取り組んでいる市民の方もおられ、大変有難く思っています。

市職員としても、スピーディー、オリジナリティ、責任、競争、自己研鑽等を鍵として、市役所、市の仕事というものについての抜本的な意識改革が必要であります。

行政での意識改革の一歩として、新年度から、新たな予算編成方式を導入しました。この枠配分方式と事務事業評価、実施計画、職員の目標管理制度とを効果的に連携させ、限りある財源の効率的、効果的な配分、執行をいたすとともに、職員の意識改革を進めていきます。

さらに、大学等の頭脳が集積した多摩地域の特色を活用し、学術・文化・産業ネットワーク多摩への参加など大学等との連携を深め、企画立案能力の向上や新たな視点での施策検証などを図つていきたいと考えます。

救急医療の拠点となる公

立福生病院の施設整備、医

療体制の充実に努めると

ともに、治療から予防へ、健康

の好ましい状況を維持しつ

つ、少子化のなかで、幼児元化の流れなども考慮しつ

つ、公立保育園の役割、在

り方ということについても方

向性を見出しています。

また、保育園の就園です

る専門機関が連携して解

決していくネットワークを

構築し、「福生型」の子育て環

境の整備に努めています。

また、専門的立場から心の健康

に関する相談を行う専門医

事務事業評価、実施計画、職

員の目標管理制度とを効果

的に連携させ、限りある財源

の効率的、効果的な配分、執

事務事業評価、実施計画、職